

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500309	
法人名	有限会社スピリッツ	
事業所名	グループホーム 淳厚苑	
所在地	岡山県津山市加茂町塔中105	
自己評価作成日	令和 4 年 7 月 20 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokenseki.wilw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&jgyosyo04=3373500309-006Service04=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス	
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18	
訪問調査日	令和 4 年 7 月 28 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごすことができるように支援しています。 ・その人のペースで生活ができ、自分の個性を出すことができます。 ・ホームでの生活で自分の場所が笑顔となり、生活改善ができ、家族も来られ安心してきています。 ・職員も利用者も自分のしたい事は出来る場であり、家族同様の生活ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、管理者に何でも話せ、利用者にしての限り応え、心が通う施設。職員の思いが職員のやる気に繋がっている。「急に抹茶を飲もう」とか「思いや案が湧くとすぐやってみましょう」等すぐ行動に移し、統括も管理者もリスクがない様にOKサインを出している。年始めに干支の作品を作っているのもこの気持ちから始まり、毎年継続している。市の職員さんも毎年を気にかけてくれ、アイデアの発案から協力してくれ、行政業だけでなく、身近な職員ともなっている。この度「拘束とはなにか？」と統括の質問で、個々の回答から拘束の理解度が分かり、今後のテーマが定められた。ときに「部屋に来てほしい！」との利用者の要望も、真摯に受け止め、1時間を限界として、おしゃべりに花を添えることもしばしば。職員の協力とチームワークが、さりげなく第2の我が家として、心が通えるように向き合っていた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入口に手作り理念を掲げ、毎日共有し、理念に近づけるよう努めている。	理念は、共有場所に掲示している。日々の申し送りで言葉に出し、確認を行っている。理念に近づけるために、やりたい活動にチャレンジしやすい体制を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・コロナ対策として、催し物などが中止になることが多く、交流の機会が少なかった。	地域の方に挨拶をする、手を振ることは、日々行っている。文化祭や敬老会を通じて、地域との交流を行っている。今年の敬老会は銭太鼓を演目に入れ、目下練習中である。また「わくわくワーク」と称して、毎年6月に中学生の職場実習の機会を設け、協力して作品を作っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・作品作りを通して、生きがいを持ち、地域の人々と交流の場を持てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・感染対策で会議の開催が出来ない時は書面にて活動内容の報告を行っている。	市の職員・利用者家族の他、民生委員や婦人会の方も運営推進会議に参加している。新型コロナウイルスによる影響で開催できない時には、参加者に書面で報告している。	地域の消防や警察・学校関係との縁も増やし、時には会に参加するご縁を築いたらいかがでしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市とは通知等で不明な点があれば、連絡を取り確認と指導を受けている。	統括管理者・事業所管理者が窓口となり、市町村との連携を行っている。行政に関する連絡の他、他事業所の作品情報や新作のアドバイスも受けている。	サブの職員さんと市町村とのご縁を深め、いつ何時にも市町村と相談できる体制を作ってはいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関は常に解放し、いつでも行き来できるようにしている。 ・職員研修を行い、理解を深めている。	身体拘束に関する研修として、これまでは共通の学習を行っていたが、各職員へ個別に内容と対策のアンケートを取った。管理者が職員の拘束に対する理解度が把握できたため、今後の課題のテーマのスタートが明確となった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体観察をし、変化に気付く目を持ち、会議でマニュアルをもとに話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・重度化に伴い、次のサービス利用につなげるよう支援している。 ・成年後見制度を利用されている方がおられ、必要なときには相談に乗って頂ける関係を築けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・個別での説明をしている。不安や疑問等をお聞きしご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の意見は申し送りしながら、記録に入れながら全員に伝えて反映させている。	利用者からは、食べ物への要望が強いので、利用者の体調を考え、家族や医師と相談しながら対応している。利用者からの意向は、関わる時間を増やして聞き取ることで、正確に吸い上げることができており、聞き取り方法や支援方針を職員と共有し、実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月一回の職員会議(全員参加)や毎日のミーティングで気付いた点や意見を聞き、話し合っ即反映させている。	職員間で意見を率直に言い合える関係が築けている。月に1度の会議には、統括管理者も参加し、職員から吸い上げた意見を的確にまとめ、運営・支援に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年契約時に各人面接を行い、意見を話し合い、働きやすい職場にしている。 ・交付金の支給により職員のやりがいを見つける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・資格取得に向け情報提供したり勉強の仕方を協力している。 ・実践の中にアドバイスを入れながら実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域事業者の参加する研修に参加し、職員会議にて実践し、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所した時は特に不安であり色々な症状がみられる。出来るだけ1対1で対応し、一人ではないという事に気付いてもらい、信頼を得るように努めている。 ・そばに寄り添い話を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居申し込み時や、手続き時に家族の思いや要望を聞き、相談しながら関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・困っていることを優先しながらその時必要としている支援は何かを考えるようにしている。必要に応じ他のサービスの利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で、出来ることをして協力し合える関係を保っている。(片付け、掃除、洗濯たたみ、料理手伝い等) ・生活の中で色々教えてもらう事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と連携を取りながら、一緒に本人を支えて行ける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ禍の為、短時間での面会としているが電話したり関係が途切れないよう支援している。	新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、面会方法を調整することで、可能な限り馴染みの方と継続して関われる環境を作っている。県外に馴染みの方がいる利用者も生活されているため、普段は手紙でやり取りをしているが、来所できるタイミングでは、事業所から連絡を入れ、面会を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。 ・会話しやすい雰囲気作りや、テーブルの席などを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後に入所された施設と連携を図り、当施設での様子や対応方法を伝えている。ご家族にも相談等あればいつでも連絡をして欲しいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何回も繰り返し話をしたり、困難な場合は顔の表情や体の動きを見て把握している。 ・一人ずつ時間をかけて、会話が出来るようにしている。	利用者からの言葉を受ける他、身振り・手振りからも、利用者の思いを汲み取っている。また、時間をかけて、雑談を交えて会話をすることで、利用者との心の距離感を一層近づけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者との会話、面会者や家族からの聞き取りや担当だったケアマネージャーさんから話を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の申し送り、毎月の職員会議、日誌、個人記録等により把握している。 ・全員が確認ノートに確認印を押している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人、家族の思いや意向を取り入れている。 ・毎月一回の会議や日々職員間で話し合い作成している。	入所時に計画を立て、その後は生活の場であることから、1年周期で計画内容を深めている。ただし、状況の変化や月に1度の会議の中で新たな意見が見られた場合には、随時変更をかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・できること、出来ないことが日々変わる事があるが、小さな変化を見つけ、計画を変えている。 ・個人記録や申し送りノートを使用し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出したいときには外出したり、その時その時を大切にし臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・例年カラオケ大会の応援、町文化祭へ見学に行き交流を深めているが、コロナ対策の為参加できていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院が同一敷地内にある為、急変時や小さな変化も即対応できる。 ・専門科(精神科)受診も継続し、季節時変化に対応できるよう支援。 ・家族希望で独自受診を支援する。	同じ建物の1階にかかりつけの内科があり、深い連携が取れている。週に1度は内科から看護師が来所されるが、緊急時には、夜間であっても、時間を問わず来所され、状況確認も行われている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一敷地内に病院があるので、迅速、適切な対応が可能である。 ・週に1回、看護師の訪問があるので、体調変化や気づきなどを報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・病院初診については家族に様子を伝え、付き添ってもらう。(利用者の状態は書面で渡す) ・家族との話し合いの機会を設けている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・夜間時、職員が一人となる為対応できないので、家族と話し合い、協力を求め夜間付添が可能であれば、話し合っの対応ができ支援可能である。 ・看取りも相談に応じている。	看取りができる支援体制を作っている。看取り支援を必要とする場合には、事前に会議を設け、家族やかかりつけ医と相談の上で実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内研修において、急変時や事故発生時の勉強の時間を作っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に1回、総合訓練を実施している。職員会議において即対応できるように訓練している。 ・土砂災害、地震時の対応も考え意識づけをしている。 ・防災頭巾をリビングに常備している。	火災想定避難訓練を行う場合には、消防署の職員にも来ていただき、一階の内科と隣接する「善厚苑」と合同で実施している。備蓄食料も用意しているが、災害が増えていることから、増量も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体で、家族のようにその人に合わせて馴染みの会話で対応している。 ・入浴、排泄時には特にプライバシーに配慮した対応をしている。 	呼称は苗字に「さん」を付けて呼んでいる。ただし、苗字が同じ場合には、名前に「さん」をつけている。排泄の失敗が見られた際には、浴室や空き部屋を活用し、環境的に配慮することで、プライバシーを守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の会話の中で、本人の思いや希望を確認している。 ・会話を大切に、表情や顔色を見ながら自己決定を出来るようにする。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日課にとらわれることなく本人の希望通り付添い、外出等支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・今までも使ってきた物、好みの物を持ってきてもらうようにしている。 ・入浴前には、一緒に準備を行い好みの物を着るようにしている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・旬の食物(魚、野菜、果物等)の話をする。 ・楽しめるように目の前で調理したり、材料を切ったり皮を剥いたりして、意欲的に手を出せるよう工夫している。 	3食/日、おやつ全てを手作りで提供している。誕生日等のイベント日の他、利用者からリクエストが見られた場合には応えている。また、夏には竹を割った水路を作って、流しそうめんをすることで、歓声が上がっている。四季折々の季節を感じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜中心に栄養バランスを考えている。 ・水分がとりにくい方には、声掛けや味を変えるなど工夫し、必要な量がとれるようにしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後、声掛けをしている。出来ない方には介助し、出来る方には準備をして見守っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にてパターンを共有し、利用者の力を活かし、トイレでの排泄に向け支援している。	入所時には、排泄チェック表を用いて支援を行っている。利用者のリズムが掴めると、時間帯や仕草を見て、支援を行っている。ただし、泌尿器科に通院されている方には、チェック表を用いることで、支援の徹底を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・2日に1回の排便を目指し野菜中心に食事を出し、食前には運動をするよう支援している。 ・必要な水分量がとれるよう声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・足浴、シャワー浴、清拭等、希望に応じて支援している。 ・本人の了解を得て、曜日を決めて伝えているが、希望により変更することもある。	入浴は基本週2回。利用者から、曜日の変更や回数を増やしてほしいとの要望が見られた際には、対応している。入所前まで数年間入浴できていなかった方もいたが、職員と一緒に入ることを提案すると、徐々に気持ちが解れ、現在は職員の支援の下、入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを崩さないようしながら休む時間を作り(昼)、安心して眠れるよう電気や冷暖房に注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解できるように変化時には、申し送りや記録をし、理解して薬の管理が出来るようにしている。 ・日々バイタルチェックをし、変化の確認をしながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・好きな事、やってきた事、やりたい事が行えるように声掛けや、企画を行っている。 ・誕生日には好きな物をリクエストできる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・新緑、紅葉など天候に左右されるものは、タイミングを逃さないよう実施している。希望によって、散歩・ドライブへ出かけている。	近隣に神社があり、花見に行き、大自然の空気に触れて、フラストレーションを回避している。最近では身近な散歩に出かけることが多いが、利用者から、おにぎりを持って出かけたかったとの思いが募り、近くのダムにおにぎり持参でピクニックに行くと、多くの笑顔が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・コロナ禍の為、外出して買い物をするということが現状では難しい。 ・買い物をしたい方は、家族にお願いしたり職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・面会時にパンフレットを渡し、いつでも電話しても良い事を説明している。本人が希望される時には電話にて話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関やリビングなどに手作りした作品を展示したり、季節を感じることのできる物を置いて居心地良く過ごせるような工夫をしている。	共有場所には、職員と利用者が、年初めにむけて一緒に6月頃から制作した紙を丸めてつくる干支の大作や四季折々の季節の作品を飾っている。リビングのソファーにさりげなく腰掛け、憩いの場として集い、いつも隣に座っている方がそこにいることで、ほっとした安心に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを置き、仲良し同士が話ができ、友達同士がお互いの部屋で話したり、一人でベッドの中で雑誌を読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・持ち込み自由であり、使い慣れたものをポロポロになるまで持ち安心できるようにしている。 ・リサイクルをして使用を継続する方法をとっている。	使い慣れた物を自宅から持ち込むことで、居室を我が家化して安心感を抱いている。中には、マイ枕を持ち込んだことで、夜に熟睡できる方もいる。家族から孫の写真や母の日にもらった花を飾ることで、家族を身近に感じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・直線廊下を使い、歩行訓練や車いすの自走練習を行うなど工夫している。		